

第6回「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」

議 事 録

(日 時) 平成21年3月25日(水) 14:00～16:00

(場 所) 京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間

(議事次第)

1. 各WGの協議状況
2. 平成20年度の施策について(報告)
3. まちなかの交通に関する実態調査について(報告)

資 料 各WGの協議状況及び平成20年度の施策
まちなかの交通に関する実態調査について 関連データ集

参考資料 「歩いて楽しいまちなか戦略」歴史的都心地区現況図
「歩いて楽しいまちなか戦略」第5回協議会摘録

その他 「歩いて楽しいまちなか戦略」第6回協議会出席者名簿
「歩いて楽しいまちなか戦略」第6回協議会座席表

(出席者名簿)

分野	所属	役職	委員氏名	出欠 (代理出席)	
学識経験者	立命館大学理工学部教授(副議長)		塚口 博司	出席	
	京都大学大学院経済学研究科教授(副議長)		岡田 知弘	欠席	
	京都大学大学院工学研究科教授		中川 大	欠席	
地元組織	自治連合会等	中 京 区	鹿池学区会長	谷岡 英治	出席
			初音学区会長	舟越 平	欠席
			柳池学区会長	藤野 英雄	出席
			銅駝学区会長	松本 泰治	出席
			明倫学区会長	吉田 孝次郎	(代)副会長 井上 高明
		日影学区会長	澤田 實	出席	
		生祥学区会長	山田 清三郎	出席	
		立誠学区会長	山本 訓三	欠席	
		下 京 区	成徳学区会長	大森 重徳	(代)副会長 平岡 昌高
			豊園学区会長	出島 昭男	欠席
	開智学区会長		大森 延三九	欠席	
	商業関係者	東 山 交 通 対 策 研 究 会	永松学区会長	八木 浄一	(代)副会長 井上 再次
			東山区役所区民部長	池田 健	欠席
			京都商店連盟会長	早瀬 善男	欠席
			京都商店連盟中京東支店支店長	石野 猛	欠席
			河原町商店街振興組合理事長代行	齋田 六史郎	出席
			新京極商店街振興組合理事長	細野 修作	出席
			寺町京極商店街振興組合理事長	浦田 和直	出席
			京都錦市場商店街振興組合理事長	宇津 克美	(代)副会長 田中 茂男
			四糸繁栄会商店街振興組合理事長	堀部 素弘	(代)専務理事 亀井 邦彦
			三茶小橋商店街振興組合理事長	大西 弘太郎	欠席
百貨店	パレット河原町商店街振興組合理事長	洞本 昌男	(代)専務理事 中井 雅夫		
	河原町蛸薬師商店街振興組合理事長	西口 正博	出席		
	株式会社高島屋京都店総務部総務担当部長	大井 義雄	出席		
京 都 商 工 会 議 所	株式会社大丸京都店業務推進部マネジャー	大橋 弘司	出席		
	地域開発・都市整備委員長	平井 義久	(代)産業振興部 梅垣 純		
関係団体	財団法人花園祭山鉾連合会理事		深見 茂	出席	
	歩いて暮らせるまちづくり推進会議代表		岡見 弘道	(代)事務局 河野 泰	
	京のアジェンダ21フォーラム 事務局コーディネーター		長谷川 吉典	(代)事務局長 西本 雅則	
	京都府旅館生活衛生同業組合副理事長		北原 茂樹	出席	
駐 車 場 関 係	京都府旅館生活衛生同業組合副理事長		有本 嘉兵衛	欠席	
	京の三条まちづくり協議会会長		津田 和雄	出席	
交通事業者	鉄 道	阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部調査役	樋口 賢	出席	
		京阪電気鉄道株式会社鉄道企画部課長	前田 勝	出席	
		京都市交通局高速鉄道部長	真下 清	欠席	
	バ ス	京阪バス株式会社取締役企画室部長	柴原 修一	(代)企画部課長 田中 弥	
		京都バス株式会社運輸部営業課長	清水 克之	出席	
		京都市交通局自動車部長	岡崎 弘	(代)運輸課担当課長 中山 茂	
	タクシ ー	社団法人京都府タクシー協会専務理事		下川 隆	出席
	ト ラ ッ ク	社団法人京都府トラック協会専務理事		杉本 守	出席
	国 土 交 通 省	企 画 部 広 域 計 画 課 長	企画部広域計画課長	小路 剛志	欠席
			近畿地方整備局	建設部都市整備課長	奥田 諒夫
京都国道事務所調査課長			中島 廣長	欠席	
近 畿 運 輸 局		企画観光部企画課長	堤 俊哉	欠席	
		京都運輸支局首席運輸企画専門官	羽田 祐治	欠席	
警 察	京都府警察本部交通部交通規制課長		川村 猛	出席	
	京都府警察本部交通部駐車対策課長		村山 守	(代)課長補佐 山内 忠春	
	京都府警察本部中心繁華街総合対策推進室統括官		養田 一広	欠席	
	京都府五条警察署長		小田 武治	欠席	
	京都府東山警察署長		金森 謙	(代)交通課長 田伏 純一	
京 都 市	交 通 政 策 監		水田 雅博	出席	
	都 市 計 画 局 長		里見 晋	出席	
	総 合 企 画 局	政策推進室企画部長	柴山 薫	出席	
		環境企画部担当部長	磯井 芳和	出席	
	環 境 局				
	文 化 市 民 局	市民生活部長	鶴谷 隆	(代)安全対策担当課長 高岡 晋代雄	
	産 業 観 光 局	商工部長	西川 隆善	(代)商業振興課長 高見 孝幸	
	都 市 計 画 局	都市企画部長	桐澤 孝男	出席	
		歩くまち京都推進室長	佐伯 康介	出席	
	建 設 局	土木管理部長	奥村 治男	出席	
		土木管理部自転車総合政策担当部長	二木 久雄	出席	
		道路建設部長	河嶋 敏郎	出席	
	中 京 区 役 所	区民部長	藤井 宏一郎	欠席	
	下 京 区 役 所	区民部長	村上 圭子	欠席	
交 通 局	企画総務部担当部長	木村 繁	出席		

(敬称略)

(議事内容)

1.開会

(司会：都市計画局歩くまち京都推進室長 佐伯室長)

本日は大変お忙しい中ご出席を頂きまして、まことにありがとうございます。只今から歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会第6回協議会を始めさせていただきます。

まず、この協議会をはじめる前に、大変悲しいお知らせがございます。皆様既にご承知のことと存じますが、平成18年の本協議会発足以来、歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会議長をお務めいただいております。北村隆一京都大学教授におかれましては、かねてから病氣療養中のところ、2月19日に59歳の若さでご逝去されたということでございます。ここに、謹んで皆様にお知らせしますとともに、北村先生をしのび黙禱を捧げたいと思います。

それでは、開会にあたりまして水田交通政策監からご挨拶を申し上げます。

2.政策監あいさつ

皆様、本日は誠にありがとうございます。昨日はWBCで日本が2連覇を果たすという非常にうれしいニュースとともに、まちなみにも桜の花をみかけるという本当に春がきているというそんな季節がやってまいりました。本日は、歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会に、大変年度末のお忙しい中にも関わりませず、塚口副議長をはじめとし、委員の皆様方に多くのご協力をお預かりし、心より御礼申し上げます。また、日頃から歩いて楽しいまちの実現のため、門川大作京都市政の推進に皆様方それぞれの立場でお力添えいただいておりますことを、この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

ただいま、開会に先立ちまして北村隆一先生をしのぐための黙禱を皆様に頂戴いたしました。私自身もこの1年しか先生と接点がなかったわけですが、歩いて楽しいまち実現のために、そして公共交通優先のまちづくりに対して多くのご意見を頂戴し、そして、先生の常に前を見据えた、凜とした姿勢でのご指導をいただけてまいりましただけに、大変つらい想いでいっぱいです。先生が貫こうとされていましてご遺志をここにいる皆様方としっかりと連携する中で、楽しいまち実現に結び付けていかなければならないと改めて実感しているところでございます。そして、この歴史都市京都のまちが、50年後も100年

後も輝き続けるためには、ここにおいでの皆様が確かな連携のもとに、歩いて楽しいまちなかを、この歴史的都心部を中心とした施策が何よりも大事だと認識しております。今後におきまして、皆様方と前へ進み、これからこの京都を支えていく子どもたちに、しっかりと残していかなければならないと存じております。

先週、幹事会を開催させていただきましたときにも、大変熱心なご意見を頂戴しております。そして、本日ここにご来席の皆様の英知を結集する事により、歩いて楽しいまちが必ず実現するものと信じております。今後も引き続き皆様方としっかり連携させていただくような、そんな歩いて楽しいまちにしていきたいと考えております。皆様方のこれからのご指導をお願いして開会にあたりましてのあいさつにさせていただきます。お忙しい中、皆様本当にありがとうございました。

3.資料確認

(司会：都市計画局歩くまち京都推進室長 佐伯室長)

なお、冒頭にお知らせしましたが、本協議会の議長をおつとめいただいていた北村先生がご逝去されましたために、本協議会の副議長、塚口先生に本日の議事進行をお願いしたいと存じます。塚口先生、よろしく願いをいたします。

4.副議長あいさつ

それでは、私の方で北村先生に代わりまして本日の議事進行を務めさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

北村先生は、研究活動だけでなく行政関係の諸委員会も非常に真摯な対応で熱心に取り組まれたわけですが、とりわけ歩いて楽しいまちなか戦略につきましては、大いなる関心を寄せていろいろなご発言もされてきたわけでございます。その先生のご遺志を継ぎまして、少しでもこの協議会が前へ進めばと思っておりますので、皆様方には忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、今年度検討を進めております各WGの協議状況について、平成20年度の施策、まちなかの交通に関する実態調査について事務局より報告と提案をしていただきたいと思います。事務局からの報告後に皆様方からご意見をいただくというふうに進めてまいりたいと思います。忌憚のないご意見をいただきました

と思います。

まず、第一議題の各WGの協議状況についてでございますけれども、実はWGを設置することにつきましては、この協議会で議論した上で活動を開始するべきではございましたが、時間の都合もございまして協議会につきましては事後承認ということで、本日になりましてこういったWGが設置されているということをまずご了解いただきました上で、各WGの活動状況につきまして説明をしていただきたいと思います。それでは事務局よろしく申し上げます。

5.資料説明

(各WGの協議状況)

6.質疑応答

塚口副議長

只今の報告に対し、皆様からご意見を頂戴するわけでございますが、一つ文書が届いておりますので、皆様方に、議論をはじめるとにあたりましてご紹介をしておきます。

津田委員からのメッセージでございまして、歩いて楽しいまちなか戦略推進会議議長様となっておりますので、私のほうで朗読をさせていただきます。

去る3月18日に開催された第9回幹事会歩いて楽しいまちなか戦略幹事会の席上、四条通WG協議状況報告の中で、四条通道路空間再配分に関する基本コンセプト第4項目、即ち「具体的には広幅員歩道プラス2車線道路を基本構成として、望ましい道路空間配分・共有方法を検討する」の中、2車線道路について、当協議会（津田委員）が質した発言に対し、事務局及び幹事長の、あたかも決定済みであるかのような発言は公正な審議をする上で問題があると考えております。この問題については現在四条通WGにおいて議論を進めているところであり、結論には達していないと承知しており、当協議会においても決定しているとは認識しておりません。以上、意見を付して提出いたします。

つまり、広幅員歩道プラス2車線道路の解釈を、この2車線が片方向ずつ2車線、全部で4車線と津田委員は主張したいということのようでございます。こういう意見が提出されておりますので、ご紹介させていただきました。

それでは事務局の説明に対しまして、委員の皆様方からご質問、ご意見を賜りたいと思います。

細野委員

- 京都の人間と地方の方との間に温度があるような気がする。京都以外の方が、どのように京都に関心を持っているのか、どの辺に興味をもっているのか、京都に何を望んでいるのか、都心に来てどのようなことを期待されているのか等のデータを披露して頂かないと、地元の者ばかりが集まって議論しても話が進みにくいところがある。そのようなデータを集めるのかどうかお聞きしたい。

塚口副議長

- 歩いて楽しくあるべきなのはどの人なのか、当然市民が第一に挙げられるが、来街者に対しても、歩いて楽しい環境を整えることが重要であると思う。そういったことに対して、事務局は何かデータとしてつかんでいるのか。

事務局

- 社会実験を実施した折に、来街者へのアンケートを行った。京都市外の方であるとか近郊来外者、遠くからの来外者ということについては、明確ではないが、歩行者を中心とした歩いて楽しいまちづくりについては、ほぼ9割の方から「そう思う」と答えて頂いた。また、公共交通が便利になるのであれば、自動車利用が不便になっても仕方がないということに対しても7割を超える来街者の方が賛同して頂いている。さらに、美しく魅力あるまちづくりという取組を一体的に進めるべきだという方についても来街者の9割弱の方から頂いており、私共が展開しているこのような取組について、来外者の方も非常に意識が高いというふうに認識しているところである。

細野委員

- 京都駅へ行くにはどう行ったらいいのか、どういう交通網を使って行くのかという質問が想像以上に多い。地下鉄はどのように乗っていったらいいのか、京阪、阪急の交通網の利用の仕方など、迷われている方が意外と多いのが現状である。お客様が自由に京都に親しみ、中心市街地から自由に行動ができるというのが、本当の歩いて楽しいまちであり、1つの親切だと思う。しかし、今回のパンフレットを見ても、地図は沢山載っていても、案外地図を見ても分からないという現状がある。

- 中心部に何を望んでいるのかというキーポイントを押さえていただきたい。

塚口副議長

- 広報活動には力を入れていると思うが、今後も外部から来ていただく方に、的確な情報を提供していくということをお願いしたい。市の方から何かお答えいただけるか。

事務局

- 京都市では毎年観光調査年報を発行しており、この中に、観光地のランキングがあるが、京都駅自体がひとつの大きな施設になっており、京都駅に来るといふ方もいる。また、観光ではなく、中心市街地にショッピングに来られるといふことで、四条河原町界隈も非常に高いランキングとなっている。
- そのような方々に対して、公共交通のネットワークをいかに便利なものにしていくかといふことについては、「歩くまち・京都」総合交通戦略で議論している。これは今年の夏に策定していくが、その中の検討部会で、京都市内の全ての鉄道事業者、バス事業者の皆様を集っていただき、それぞれの乗り継ぎも含めて、いかに便利にしていくかといふ議論を行っているところである。事業者間相互の案内など、個々の事業者において、工夫されているところであるが、今ご指摘があった利用者の視点に立った案内の仕方についても、これから十分に議論を進めていきたい。

塚口副議長

- 公共交通をうまく、便利に使えるような仕組みづくりと、細野委員が最初に言われた、来街者が京都の都心部において何を望んでいるのかといふことについて、観光客に対する色々な調査からできるだけ明確にしていいただければ結構かと思う。

河野委員

- 資料の10頁の下に、「家の前の道」といふ言葉について説明があり、自分の家の前の、点あるいは非常に短い線としての道ではなく、拡がりがあるといふことを言っているわけだが、別の言い方をすると、公共といふ言葉がある。公といふのはpublicで、共といふのはcommonといふ用語が当てはまるかと思うが、common空間といふふうに捉えるといふ解釈でいいのか。

事務局

- こちらから示しているものは、わが家の前の道だけといふことで、占有するといふイメージはなく、広がりをもつpublicの一部であるといふ認識である。その中で、それぞれの町内、自治会などが、自らの特徴や状況を踏まえて、どのような道のあり方がいいかといふことについて、「人が主役のまちなか道路」の仕組の中で、議論をしていただきたいといふ思いである。

河野委員

- 道路といふのは皆の共有物だといふのが大前提である。個人のものでない、京都市のものでない、皆が使い分けていくものだといふ認識があつてこそ、「人が主役のまちなか道路」だと思ふ。

塚口副議長

- 幹線道路では、四条通のように歩道を少し広げて車の使う部分を狭くしてというような空間的な使い分けがあると思うが、細街路ではそのようなことがなかなか難しい。そういうところでは、空間的な使い分けではなく、時間的な使い分けが特に重要になってくるのではないかと思う。
- 今後のWGの進め方を、おおよその方向で取りまとめさせていただく。
- 四条通WGについては、歩道拡幅を中心として、これまで色々と検討されてきたが、今後は、歩くまちのコンセプトの中で、歩道拡幅を実現するために乗り越えなければならない課題の解決策について、その細部を詰めていただくという方向で進めていただけるのかなと思っている。
- 三条細街路WGについては、人が主役のまちなか道路の仕組みづくりということであるが、ソフト的な施策が非常に重要になってくると思うので、そういったところの検討を詰めていただくということになるかと思う。
- 河原町通WGについては、河原町三条交差点のスクランブル化、そこを起点とした河原町通や三条通の今後のあり方、京都の「お入り口」三条通における整備のあり方、あるいはまちづくりの方向性というものについて検討を継続して進めていただければと思う。
- 物流WGについては、11月中旬に実施した四条通の交通実態調査結果、荷捌き実態調査結果を軸に分析していただき、今後の荷捌きのあり方についてご検討いただく方向性で進めていただければと思う。
- 続いて、2つ目の議題である、平成20年度の施策について、事務局よりご報告いただきたい。

7.資料説明

(平成20年度の施策)

8.質疑応答

塚口副議長

- 先ほど、情報の提供が十分でない、細野委員からご質問があったが、リーフレットを見て、何かご指摘いただくことはあるか。

細野委員

- 例えば、今御所の早咲きの枝垂桜が満開で、それをお客様に紹介すると、本人はすごく行きたがる。ところが、御所に行く方法が分からないため、タク

シーで行ってくださいとしか言いようがない。

- 地方から来た人が、とっさの行動をするときに、どこに楽しみがあるかというのを押さえられていない。単に、案内したらいいというのではなく、お客様がその気になった時にどういう行動をとって、まちなかを歩いて楽しんでいただけるかという部分を考えないといけない。

塚口副議長

- 情報というのは、1年を通して固定されたものもあるし、その時々タイミングを見て出すべき情報もある。情報については、おそらく、行政に任せきりというのではなく、地元でもいろいろとお考えになっていると思うので、地元の皆様方と共同作業という形で進められていくのではないかと思う。事務局から何か付け加えることはあるだろうか。

事務局

- 今、ご指摘いただいたことは非常に大事なことでありと認識している。京都に来られる際には、自宅を出るときに得られる情報、移動しているときに得られる情報、京都に着いたときに得られる情報、その場に来られたときにどういう案内が出ているかといくつかの階層があって、その場での情報が非常に重要ではないかと思っている。

- 例えば京都市観光協会などでは、いろいろな京都の観光情報をインターネットで発信しているし、京都に乗り入れている鉄道事業者の皆様、交通局でも非常に詳細な市内の公共交通の情報を提供している。ところが、それだけの情報を提供していながら、どこで探したらいいのかが分からないというようなこともあるかと思うし、シーズンになると、いろいろな情報雑誌が本屋に並ぶが、その中に載っている情報がどれだけ分かりやすいかで、その情報を活用できるかできないか決まってくる。

- 各時点での情報が、うまく活用されるように、地元の事業者の皆様、それぞれ情報を発信しておられる事業者の皆様ともうまく連携をしながら、今後も検討していきたいと考えている。

河野委員

- まちかど駐輪場について、実験終了後も、本格設置に向けて検討しているという話だったがどうなのか。新京極は8日で終わっているが、御池通は31日で終わった後、どのようなスケジュールになっているのか。

事務局

- 現在、設置している御池通の駐輪場については、今後の本格実施に向けて、

今月19日に予算が通ったところである。今後、駐輪場の垣根の問題であったり、どこにどれだけ設置するのかなどについて、自治会の皆様、会社を営んでおられる方々と調整をしながら設置していきたいと考えている。

- 設置の時期については、警察の協議を進めているところであるが、9月頃になると考えている。

事務局

- 4月以降の状況については、地元の皆様のご意向も伺いながらという動きを、今しているところなので、まだ結論がしっかりとでる状況にはなっていない。

大井委員

- 南の方でもマンションが増えてきており、いろんな方面から自転車で来られて、阪急河原町駅周辺の寺町辺りでは、以前よりも駐輪台数が増えているように思える。もう少し、南の方にも配慮いただけるとありがたい。

塚口副議長

- まちかど駐輪場は、大きなものを少数つくるのではなく、小中規模のものを分散配置していくという、非常に理にかなったものであるが、確かに南の方は弱い。今後なにがしか施策を展開する予定はあるのか。

事務局

- 18年に都心部の放置自転車対策アクションプログラムを策定しており、その中で、1500台の公共駐輪場を作ることを発表している。現在まで富小路六角で530台、建設中だが御射山の地下の駐輪場で1041台ある。御池路上駐輪場はできたら駅周辺で400台くらいは整備していきたいと考えている。
- 四条通より南側や新京極公園などでの駐輪場の設置は、都心部全体で見たときに必要なものだと考えている。寺町付近では車も走れない程の自転車が放置されていることは十分承知している。今後は、このようなところに重点的に配置できるように、例えば、民間の土地をお借りして駐輪場を設置する、小規模分散型の路上駐輪場を設置するなどの方策を実施していきたい。4月1日から民間の方に駐輪場を造っていただくための助成金も出していく。こういったところを十二分に活用しながら、本当に必要となる駐輪場を設置していきたいと考えているのでご理解、ご協力をいただきたい。

塚口副議長

- 行政だけが作るのではなく、民間にも整備の手伝いをしていただける、何がしかのビジネスモデルが成り立つような工夫を考えていただければと思う。

細野委員

- 今まで触れられてなかった部分だが、これからの京都は都心の緑化ということも大事だと思う。まちなかに憩いの場所というような緑化された場所が、

計画的にはほとんどない。歩くまちの緑化とか、そういう検討はされていないのか。

事務局

- 中京区，下京区は11行政区の中でも緑比率が非常に低くなっている。そのような中で，京都市としては，中京区役所の屋上緑化を進めたり，壁面の緑化を進めるということでその助成なども行っている。
- 京都市は環境モデル都市に選ばれており，その中で，都市の緑化については大きな項目として掲げられているので，その視点も含め，まちなかの対応を考えていきたい。

斎田委員

- 歩くまち京都推進室の成果は評価したい。各セクションで，今までの京都市の対応ではない1つの成果が上げられていると思う。ただし，計画を進めていくときには，ビジョンがあって目的地があって，ステップ前に検証して，その検証を広報し，次のステップに移られていくというようなことをやってきているが，交代や異動などで，私共まちの責任者，行政など担当者が変わってしまいなかなか進まない。大きなビジョンとして，大きく3，4つの柱を掲げていただいて，それがせめてこのところまでというのが見えてこないと，大きくプロジェクトが止まってしまうことが起こり得る。どうお考えかお聞きしたい。

事務局

- この1年間，非常に大きく多くの課題を，全体として進めようという状況であっただけに，市民の皆様方にとって，一体どこまで何をするんだということが見えてこなかったことは認識している。
- 今日この歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会という1年間の締めくくりの場で動き示しているし，夏には総合交通戦略が3つの検討部会を進める中で地域の皆様，事業者の皆様，そして商店街の皆様の方々と交通管理者，道路管理者との連携を図って動き出そうとしているところある。様々な動きをしていく中で，地域の皆様とコンセンサスが得られるようにしていきたい。
- 年度が明けると，多くの市民の皆様のご意見をいただいて，歩行者優先憲章というものを提出していこうというようなこともある。また，先日行われたシンポジウムでも，参加者の皆様が一定の前進を実感していただいている。その中で，京都市のいろいろなところから新たな提案が出始めているという

雰囲気になってきているので、まちなか戦略の協議会での議論などの動きを出来る限り市民の皆様に見える形で出していきたいし、その中で、まずはここまで行きましょうという答えを出していきたいと考えている。

塚口副議長

- 内容のよさとともに、やはりスピーディに動くときは動くということも必要だと思うので、可能な範囲で、今後ともよろしく願いたい。
- 3つ目の議題として、まちなかの交通に関する実態調査を実施していただいているので、それについてご報告をお願いしたい。

9.資料説明

(まちなかの交通
に関する実態調査)

10.質疑応答

塚口副議長

- いろいろな駐輪行動が、43, 44頁に記載されているが、どのような方がどのように行動しているのかという属性ごとの分析を行っていくと、新しいことはでないだろうが、皆さんが思っているようなことが確認できるのではないかなと思うので、そのあたりは分析をお願いしたい。

細野委員

- 学生は結構遠いところから自転車で来ていたりする。自転車の方が早いということで、若い人の中には自転車の便利性があがっていると思われる。交通機関とその時間、どこから来るという行動範囲ということから、自転車の利便性を聞いてみたらどうか。

塚口副議長

- アンケート調査で、住所でも構わないが、自転車のトリップの起点が何かODがとれるようなものがあるか。

事務局

- とっている。

塚口副議長

- 後ほどまた、ご紹介いただければ委員の皆様のご参考になるかと思うので、よろしく願いたい。
- 本日の協議の内容を取りまとめる。
- WGについては、各WGが、歩いて楽しいまちなかづくりであるということ念頭において、先に進んでいただきたいと思っている。方向については、先ほど申し上げた通りである。
- 20年度の施策に関しては、自動車交通抑制策については、21年度以降も継続

するとともに、さらに、何がしか流入抑制をする方法がないのかについても、知恵を出し合うことが必要ではないかと思う。自転車に対する施策については、都心地区全体にわたって皆様方が非常に関心を持っていることなので、分散配置のまちかど駐輪場という考えのもとに、さらに施策を展開していただければと思う。賑わいの創出に関する施策については、一朝一夕にできあがるものではないが、公共交通を切れ目なく使えるようなシームレスな交通手段にしていくとともに、情報提供を色々な段階で行っていくということについて更なる努力をお願いしたいと思う。

- まちなか交通に関する実態調査については、単に調査項目について取りまとめるというだけではなく、例えば、四条通を本当に通らなければならないという車がどれくらいあるのかなど、このまちなか戦略に直接結びつくような形で結果を取りまとめていただければと思う。

斎田委員

- お役所仕事というのは、資料収集と実験、あるいは調査こういったことの繰り返しが多いという歴史があると思う。次年度は少なくとも、この体制で軸をぶらすことなく、進めて欲しい。塚口先生にも、次年度以降、どのように私達を引っ張っていただけるのかちょっとお聞きしたい。

事務局

- 先ほど塚口先生が仰ったように、スピード感がなければいけないと考えているので、スピード感をもって、縦割り行政の弊害がないような状態で進めていきたいと考えている。

塚口副議長

- 個人的な意識としては、一昨年に実施した社会実験が風化してしまっけいけないと思っている。社会実験というのは非常に大事なものであって、その経験を生かしていくという方向で推進していく必要があると思っている。

- 本日皆様から頂きましたご意見を踏まえて、来年度の歩いて楽しいまちなか戦略を推進して参りたいと考えている。協議会の最後に、里見晋都市計画局長よりご挨拶を申し上げます。

里見局長

本日は長時間にわたりまして皆様にご意見賜りましてありがとうございました。特に私は19年度からまちなか戦略に関わっておりまして、大変事務局として大いに反省しなければならないところもいくつか、特に斎田委員からご指摘ございましたように、もともとまちなか戦略を始めた目的、あるいは危機意識、

そういうものが確かにちょっと薄れているのかもしれないなと反省しながら聞いていたわけでございます。

先ほど塚口先生からもございましたように、19年の10月に社会実験を行いましたから、もう1年半近く経っているわけでございます。本来、今日お出しした実態調査につきましても社会実験の結果と照らし合わせて分析した上でお出しできるようなデータではないかと思っております、時間の関係もございましてなかなかきちんと分析までいっていないということは、事務局の1人として大変反省しているところでございます。きちんと社会実験、あるいはスタート地点での問題意識、特に四条通が典型でございますけれども、人と車の流れ、数からして人と車の占める道の割合、これが四条通ですと逆転している。そして、最近では京都駅の周辺に大きな商業施設が出る中で、京都の伝統、あるいはその石ともいえる四条通、あるいは歴史的都心地区がどのように今後、交通を一つのきっかけにしたまちづくりをしていくか、こういう危機感、あるいは今後の京都の将来に対する問題意識、ここからスタートしていたということを変更して今日のご意見を聞きながらもう一度きちんと、行政の人間は何人かずつは替わっていつてしまう宿命がありますけれども、きちんとそういうものを引き継いで、目的、目標を忘れないようにしていかなければならないと改めて感じた次第でございます。

反省ばかりのお話になってしまいましたけれども、また細野委員から外の人目というお話もございまして、最近、19年度くらいですと、かなり外の公共団体の方、あるいはいろいろな方から、四条通はどうなった、今後どうするのかというお話がかなりありました。正直、最近はそういうお問い合わせが減っているなと思っている。これも細野委員のお話を聞きながらまた反省をしたわけでございます。京都駅周辺は大きく変わりつつあります。このまちなかを、交通を一つの切り口にしてどのようなまちづくりをしていくか、改めてきちんとまき直してやっていかなければならないなと思っております。反省ばかりではございますけれども、今後のあり方について本来もう少し資料としてお出ししなければならなかったのかなと思いますけれども、現段階ではいろいろなWGにいろいろご検討いただいている状況でございますので、新年度、特に来年度

は四条通の歩道拡幅に向けた詳細設計まで行くというスピード感をもって、特にスタートからいいますと、3年目になるということでございます。3年という期限の中でどこまで目標を達成できるかという最後の、大きな目標の年になってまいります。行政として、最大限できることをさせていただきながら、1つでも2つでも目に見えるような形で動きを出して、周りの方からも、また何か次に動き出したねと言われるような形にしていきたいと思っております。反省ばかりで、長くなって申し訳ございません。本日は大変長時間に渡りましてご議論いただきましてありがとうございました。引き続きまして皆様のご支援、ご協力あるいはご提案をいただければ幸いです。本日はどうもありがとうございました。

11.閉会

以上